

To Here.
TOHREI

未来のきみを始めよう。

TOHREI GAKUEN FUJISAWA JUNIOR HIGH SCHOOL

藤嶺学園藤沢中学校

TOHREI
100th
ANNIVERSARY

身につけるのは、がんばるチカラ。



山もあれば谷もある人生だからこそ、身につけてもらいたいことがある。藤嶺では、独自の6年一貫教育を通して、生徒一人ひとりが自分で自分の人生を切り開く力を身につけてもらうことを第一に考えた教育を行います。

勉強はきっと
おもしろい。

WORTH

5つの価値ある教育です。

World

アジアに世界に目を向けます

Originality

独自の6年一貫教育を行います

Resolution

問題解決能力を育てます

Thinking

考える力・喜びを伝えます

Humanity

豊かな人間性を養います



日本を知り、世界を知る。



「茶道」「剣道」を通して
6年一貫教育の
土台づくりを行います。



一椀のお茶を手にして、ワイワイ、ガヤガヤ…。そんな「お茶ごっこ」から、お客様に美味しいお茶を点て、おもてなしをする作法がきちんとできるようになる、藤嶺6年の茶道教育。「一生懸命やる」「没頭する」「打ち込んでいる姿に感動する」時間の中で、自分自身の言動を見詰め直し、あり方を考える、大切な時間です。この経験がきっと、世界へと羽ばたいていく際の『礎』になるはずです。



英語をパスポートに。

Australia or Newzealand



語学研修(オーストラリア、ニュージーランド)



北京研修旅行

Beijin

アジアを視点に グローバル人材養成のため 道具としての英語を身につけます。

アジア太平洋地域そしてアフリカ地域を中心とした、経済・社会のグローバル化が進む現在、時代に即した国際感覚を学び、アジア太平洋地域に目を向けた若者の育成を行います。ネイティブスピーカーによる英会話や体育の授業など日常的な英語環境のほか、北京研修、語学研修(オーストラリア・ニュージーランド)などホームステイ型研修により、英語を道具として身につける機会を用意しています。



World POINT

- アジアに世界に目を向けます
- 世界の中のアジアの重要性に目を向けます
 - 英検・GTECを通して英語力の養成をしています
 - 情操教育も国際教育の一環と位置づけています



「やってみる」
から学ぶ。

「藤嶺学林」をはじめとする
深い体験が「自己発見」につながる。

未来を生き抜くカー教科書や資料、図説、問題集で得た情報を頭の中だけの所有物に止めるのではなく、自然や社会の中での体験学習を通して、実際に行動に寄与できる「知」として身につけることが重要です。そのために、キャンプや各種研修、藤嶺学林など、体験から学ぶ機会を豊富に用意しています。



藤嶺学林って？

自らの可能性を引き出し高める
多様な実践型カリキュラム。

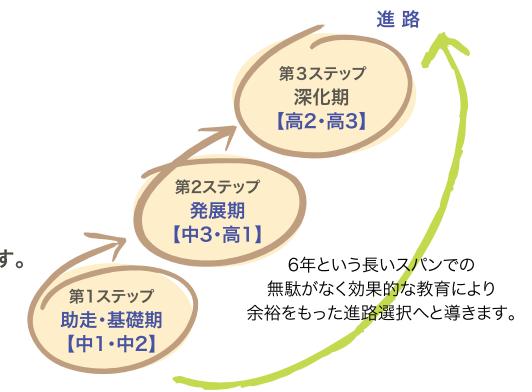
予測が不可能で何が起きるかわからない、変動の激しい社会。自分で課題を見つけ、解決しながら行動することが必要となる時、頼れるのは自分が開発してきた問題解決能力だけ。教員、保護者、そして一般の方々が先生として問いかける多様な講座が、「生徒のヤル気」を駆り立てます。





6年3ステップ 「2-2-2」制について

藤嶺では、中高6年を3ステップに分け、それぞれを助走・基礎期(中1・中2)、発展期(中3・高1)、深化期(高2・高3)、と位置づけることで、中高に継ぎ目のできない段階的なカリキュラムを組んでいます。効果的で無駄のない教科指導と、成長に応じた教養教育、将来を見据えた国際教育を、平行して行うことで、6年後の進路選択の時に余裕をもって迎えられるます。



中高一貫ができること。

高校受験に左右されることのない教育体制で、日常的に勉強を積み重ねながら、6年後の大学受験に向けた着実な歩みができるようになります。



Originality

独自の6年一貫教育を行います

- 創造力と決断力を備えた生徒を育てます
- 6年一貫教育の「3ステップ」で一人ひとりを見守ります
- 厳しくハードで…楽しい、熱意ある授業が生徒のやる気を引き出します
- 「達成感」を味わうことができる授業を展開します

6年一貫教育の最初となるステップでは、生活・学習習慣作りにじっくりと取り組みます。そのため、生活ノートを通してきめ細かく生徒一人ひとりを見守ります。また、五感すべてを刺激する深い体験学習や学校行事、そして海外研修の機会を豊富に用意することで、個性を伸ばし、創造の芽を育て、豊かな「個」を養います。

Step1
助走・基礎期
【中1・中2】

じっくり、
土台づくり。



**問題解決へのプロセスを大切に、
乗り越えるチカラを身につけます。**

「見分ける力」、「人前で話す力」、
「ディスカッションスキル」、「論理的な考え方」。
これらは将来、世の中を生き抜いていくための
土台となる能力です。
藤嶺では、中高6年間にわたる学校生活の
あらゆる場面を通して
問題解決のためのトレーニングを行い、
一人ひとりの能力を引き出していきます。

R Resolution

POINT

- 問題解決能力を育てます
- 「考える力」を養いながら、問題解決型の生徒を育てます
 - 一定の目標を定め、生徒の「本気」を引き出します
 - 体験学習が「問題解決能力」を伸ばします
 - 「協力する、相談する」という姿勢も大切にします



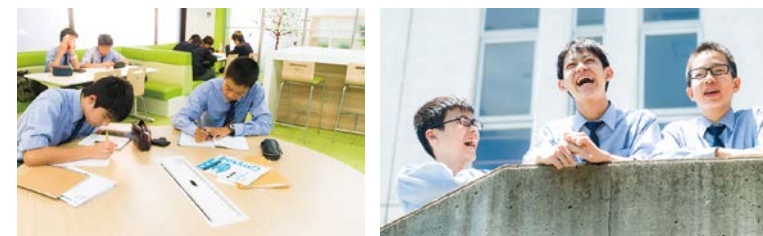
発展期
【中3・高1】

橋渡し、スムーズに。

中学の学習と高校の学習との段差を解消して、基礎から発展への移行をスムーズに行うのが、このステップのテーマです。
そのため、中学時から高校の学習内容に踏み込んだり、高校時に中学の学習内容を復習したりと、柔軟な学習システムをとっています。さらに、希望者には発展補習も行っています。

「教える」のではなく、「問いかけ」をそこに“気づき”が生まれます。

藤嶺では、生徒が一方向的に「習う」態度に陥らないよう、「気づく」「興味がわく」「調べる」「問題意識を持つ」「解決する」というプロセスを重視し、自ら主体的に考え、判断できる生徒を育てています。また、一人で解決できない問題は、皆で考えて解決するなど、「考える」喜びや姿勢を大切にすることで、「思考力」「判断力」「決断力」を持った生徒を育てます。



Thinking POINT

- 考える力・喜びを伝えます
- 知識を活用する能力を段階的に養います
 - 「考えることは楽しいこと」～学ぶ喜びを発見します
 - 情報教育ではコンピュータを道具として使いこなします
 - 卒業研修レポート作成も「考える力」のひとつです

Step3
 深化期
 【高2・高3】

いよいよ、 総仕上げ。

自律から自立へ 成長期に合わせた教育体制の仕上げを行います。

コース別カリキュラムは高3から。
 藤嶺では、国公立受験で必要とされる7科目を高2まで維持し、学習することで、私立難関大学にも対応できる「本質的な学力」(=実力)を養い、目標大学の合格可能性を広げています。
 高3からは、文系・理系に分かれ、多様化する入試と進学指導への対応を図ります。



H Humanity

POINT

豊かな人間性を養います

- 茶道や剣道など、日本文化を通して豊かな人間性を養います
- グローバル時代を生き抜く「強い個」を育てます
- 人間関係の大切さを学ぶたくさんの機会を用意します
- 自己を見つめる修養やボランティア活動も行います



卒業してからあらためて実感！ 藤嶺での6年間は今につながっています。

高校1・2年生を対象に、毎年夏休みの期間中に行われる夏期勉強合宿。チューター役の先輩に合宿参加の生徒たちが、藤嶺藤沢についてのお話をうかがいました。全員、中高6年間藤嶺藤沢で学んだ先輩たちです。

どんな人とも仲良くなれるのが男子校の良いところ

最初は学校内の雰囲気についての話から。全員が男子校ということにはまったく抵抗がなかったそうです。それどころか、共学校には無い良さがある、とにかく楽しいということだったので、その理由から話してもらいました。

東「最大の特徴は、クラスの中が分かれることなく一つになっていること。もちろん、体育会系の活発な人と比較的静かな人がいますが、そんなことには関係なく仲が良かったり、お互いが詳しいことについて教えてもらったり、普通に遊んだりしますね。」

植田「男子ばかりなので、人目を気にする必要が無いんです。だから、やりたいことやし、言いたいことも言えるんです。いろいろな人がいるのが当たり前ですから、どんなキャラクターの人でも、いじめられることはありません。小学生時代にいじめにあった経験がある人でも、活き活きと学校生活を楽していますよ。」

梅津「この良さは、卒業してからより強く感じるようになりましたね。」

お互いに認め合っているからこそ信頼関係も生まれるし、他人を批判するようなことも無いのだそうです。そして、その楽しい雰囲気の中でも、



曾根 健一朗
一橋大学
商学部 1年



クラスが一致団結する行事は、特にかなりの盛り上がりとなるようです。

遠藤「体育祭もそうですが、球技大会は燃えましたね。本気の勝負です。」

植田「やっぱり藤嶺祭！お化け屋敷でも模擬店でも、みんなでいろいろなことを考えて一生懸命やる事が楽しいんです。」

曾根「藤嶺祭で、クラスで映画を撮ったんです。夜の学校を舞台にしたホラーだけどコメディの要素もある作品。この映画が上映された後、学校内に出る落ち武者の霊が『藤嶺七不思議』になってしまったのには、ビックリしましたが。」

活気がある授業は先生との距離が近いから

次に、授業について話してもらったところ、ここでもキーワードは「楽しい」でした。

遠藤「授業は、全部楽しかったですね。先生が一方通行でしゃべってるのではなく、先生の一言一言にちゃんと応答している感じ。」

曾根「それもきっと、なんでも堂々と言える男子校の良さだと思います。」

植田「どの教科も静かな雰囲気というより、活気がある授業でしたね。」

中でも印象に残っているのは、やはり『藤嶺ならではの』授業のようです。

遠藤「体育のレベルが高いんです。大学が教



植田 遥平
九州大学
芸術工学科
工業設計学科 1年

員養成の学科なので体育の授業があるんですけど、藤嶺の体育は本当に本気でやっていたことがよくわかります。」

東「中学の道德では、論語を教えていただきました。漢文として勉強するのではなく、人としての生き方や考え方など、中身の話を聞くことができたのが良かったです。」

植田「茶道は、始める前はちょっと抵抗があったんですけど、やってみたら結構楽しかったです。今はまだわかりませんが、社会に出た時に役に立つような気がしますね。」

曾根「茶道、剣道、修養の『正座をする時間』は、やはり精神力も鍛えられる気がしますね。あいさつなどの礼儀も身に付き、姿勢も良くなります。」

梅津「外国人の先生の体育がおもしろかったです。英語がしゃべれるようになるには、慣れることが必要なので、英語の授業以外にネイティブの先生と話す機会があるのは、いいと思います。高校でもあればいいのと思いました。」

東「卒業後に海外に行って、英語を話すためには英会話の授業と文法や英作文などの、いわ

ゆる普通の英語の授業の両方が必要だったんだということが、身にしみてわかりました。例えば、基本の300文章ぐらいを覚えておくということは、会話の訓練以上に必要なことだと思います。自信がないと、この言い方で合ってるのかな？って、そこでつまってしまってしゃべれませんから。」

このほか、全員が好きだったと答えたのが中学の遊学塾。教科やジャンルにとらわれることなく、さまざまなことを体験できるのが、遊学塾。音楽や歴史、マジックなど、いろいろな先生から教えてもらえるのが良かったようです。

遠藤「藤嶺って、教員志望の人が意外に多いんですよ。たぶん、授業が楽しかったことか、先生方との関わり方が影響しているんじゃないかと思います。わざわざ相談に行くというよりも、気軽に話しかけられるから何でも聞けるというのがいいですよ。」

という意見には、全員がうなづいていました。



遠藤 弘樹
横浜国立大学
教育人間科学部
学校教育課程 1年

部活動に参加してより楽しい学校生活に

中学・高校時代といえば、やはり部活動が学校生活の中でも大きなウェイトを占める時期です。藤嶺では、部活動への積極的な参加をすすめています。

遠藤「野球部の部活動は、正直言って結構きついです。でも、そのおかげで根性はつきますよ。それが勉強に反映されるのか、高3の夏に引退した後の勉強の集中力は、誰にも負けなかったと思います。」

植田「タッチフットボール部でした。ものすごく楽しかったです。実はこの種目、高校のチームは

ほとんど無いので、試合はいつも大学生か社会人との対戦になります。そのために、練習はかなり真剣にがんばっているんですが、それがまたすごく楽しかったんですね。」

東「中学ではバレー部に所属していました。藤嶺は中高一貫校ですから、部活動も中高合同で、着替えなども一緒にします。そこで先輩たちから、あいさつや礼儀を教えてもらうことができました。」

曾根「なぜか、部活をがんばっている人のほうが、大学の合格率が高いみたいですよ。文武両道をめざしている学校だからかな？」

梅津「部活動をやっていなかった人の中には、やってあげよかって後悔をしている人がすごく多いみたいです。」

自分がやりたいことが見つかる勉強が好きになるのかもしれない

最後に、それぞれの将来の夢と、藤嶺での6年間は、今の自分にどのようにつながっているのかを聞いてみました。

東「藤嶺はとても面倒見のいい先生が多く、さまざまな面で非常にお世話になったことから、『教える』ことに興味を持ちました。今、個別指導の塾で講師のアルバイトをしています。でも、将来の夢は弁護士なんです。そのために法学部に進んで勉強しているのですが、それとは別に『教える』ことをしたかったのは、やはり藤嶺の先生方と出会えたからです。」

遠藤「6年間、部活優先のような生活をしていましたが、先生のおかげで引退後にやる気のスイッチが入り、教員養成の大学に入ることができました。卒業後は、中学か高校で英語を教えたいと思っています。高3の時の担任の先生には本当にお世話になって、卒業してからも一緒に旅行にいくほどなんですよ。」

曾根「まだ、どの学部に行くかも決まらずにいた時に、先生のアドバイスで進む道を決めることができました。商学部なので、将来は起業することや、経営者をめざしています。中学時代は、あまり勉強が得意ではありませんでしたが、高校に入って少しずつ勉強をがんばりはじめ、最終的には担任の先生との面談で奮起しました。」

梅津「今、機械工学科でエンジニアを目指しています。高校では漠然と『理系』としか思っていなかったのですが、先生からのアドバイスで大学のオープンキャンパスに参加して、目指すものが



東 隆好
早稲田大学
法学部 2年



梅津 創
横浜国立大学
理工学部
機械・材料系学科
機械工学EP 2年

見つかりました。将来は、自動車の設計とかに携われたらいいなと思っています。」

植田「ぼくは工業デザイナーになりたいんです。デザイナーというと、絵を描いたりするイメージですが、工学的なこともわかった上で、プロダクトデザインをやりたいんです。小さい頃からモノづくりが好きだったので、先生のアドバイスで幅広い知識が学べる大学を選びました。今、将来の夢に近づいていることを実感しています。」

そして、全員一致の結論はこれでした。

一同「勉強は特に好きではなかったけれど、今はやりたいことがあるから好きになりました。藤嶺では勉強する習慣もつくし、何でも先生に気軽に相談できたことが、今の自分につながっています。」



※所属・学年は取材当時のものです

伝統をつなぐ。 人をつなぎ、 未来へつなぐ。

1894年(明治27)3月に創設された清浄光寺(遊行寺)の僧侶養成機関「時宗宗学林」を前身にもつ藤嶺学園は、1915年(大正4)に創立を認可され、翌年4月、私立藤嶺中學校として開校しました。以来、百年あまり、多くの卒業生を送り出しながら、今も新たな伝統を作り出しています。



進精猛勇

【勇猛精進】

「勇猛」とは、勇ましく強い堅固な意志、「精進」とは、心を励まして仏道を歩むことをいう。この校訓は、捨聖と呼ばれた一遍上人が開いた時宗の所依経典「浄土三部経」のうち「無量寿経」中の「勇猛精進 志願無倦 専求清白之法以惠利群生(勇猛精進にして、志願を倦むことなく、専ら清白の法を求めて、もって群生を惠利す。)」をもとにしている。今も昔も変わらず人生は決して平坦ではない。そのような人生に立ち向かう心構えを端的に説く言葉として校歌にも歌われ、藤嶺健児に脈々と受け継がれている。

【質実剛健】

「質実」とは、素朴で外見の虚飾に惑わされず、まじめに物事の本質と真実を探求すること、「剛健」とは物事に動じない強い意思と健康な肉体である。すなわち、自己が一人の人間として貴い存在であることに目覚め、真に社会に貢献できる人間になることが大事であるということ。

これらは人間として生きるための平生の心構えとして一遍上人が教示されたものであり、本校の建学の精神として長く尊重されてきたものです。



伝統ある藤嶺学園藤沢中学校・高等学校では、 各界で活躍する多くの著名人を輩出しています。

「勇猛精進」の精神にふさわしく、本校の卒業生たちは、さまざまな分野にチャレンジし、その活躍にはめざましいものがあります。なかでも歴史に残るのは、「ノートル・ド・パリ」で一躍脚光を浴び、洋画史に名を遺した画家の島海青児氏や文学者の今井達夫氏。また、裸婦を描かせたら右に出る者はないとまでいわれた原精一氏や、書の世界で活躍する青木香流氏、彫刻界へ大きく貢献した木内岬氏、ヨーロッパの風景画で知られる浮田克躬氏、俳優の岡本富士太氏、プロ野球西武ライオンズで活躍した石井貴選手(現二軍コーチ)なども、よく知られる本校の卒業生です。



(左)島海青児(旧中第2回卒)作 / (真中)木内 岬(旧中第21回卒)作
(右下)浮田克躬(旧中第29回卒)作 / (右上)原 精一(旧中第7回卒)作

History ●沿革

- 1915年(大正4年)5月:財団法人私立藤嶺中學校創立を認可。
- 1916年(大正5年)4月:私立藤嶺中學校開校。
- 1918年(大正7年)6月:私立藤澤中學校と改称。
- 1921年(大正10年)3月:藤澤中學校と改称。
- 1931年(昭和6年)3月:藤澤商業學校(現:藤沢翔陵高等学校)併設。
- 1931年(昭和6年)10月:法人名称を財団法人藤嶺学園と改称。
- 1942年(昭和17年)3月:藤澤商業學校第2本科(のちの定時制)開設。
- 1945年(昭和20年)10月:英語學校開設。

- 1948年(昭和23年)3月:新制高等学校設置基準により、藤沢高等学校・藤沢中學校創立を認可される。
- 1983年(昭和58年)3月:定時制廃止。
- 1986年(昭和61年)4月:理数コース設置。
- 1995年(平成7年)5月:藤嶺学園藤沢高等学校と改称。
- 1996年(平成8年)4月:第1回国際交流実施。
- 2000年(平成12年)3月:体育館兼講堂完成。
- 2001年(平成13年)4月:藤嶺学園藤沢中學校開校。
- 2015年(平成27年)5月:創立100周年を迎える。



<http://www.tohrei-fujisawa.jp>



藤嶺学園藤沢中学校

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富1-7-1
Phone:0466-23-3150